



Weekly Report

青い空 緑の山と風
黄色のうねりは
人類の理想 文化を表わす。
それらが混然一体調和して
ロータリーの理想に向けて
昂って行く姿を示している。



地区の標語 **原点に帰りロータリーの心を学ぼう**
クラブの標語 **親睦と奉仕でクラブの和を深めよう**

◎会務報告 会長 萩生田茂夫

次年度役員理事指名委員会を11月3日、11月8日に開催致しました。出席者：田中實、赤尾恭雄、横倉舜三、宮本誠、萩生田茂夫、遠藤二郎、各会員6名。

「次年度役員・理事候補者」

会長	遠藤 二郎	理事	赤尾 恭雄
会長エレクト	吉沢 洋景	理事	高村 弘
副会長	中山 恒武	理事	関岡 俊二
幹事	須藤 起雄	理事	横倉 譲
会計	杉山 英巳	理事	鶴海英三郎

以上10名が決定致しました。本日例会終了後、カナダカルガリー国際大会に関して緊急理事会を開催致します。

◎幹事報告 幹事 橋口 洋三

- いよいよ来週11月22日(水)はガバナー公式訪問です。来賓に丸山ガバナー、稲城RCの河合地区副幹事、渡辺分区代理、栗山分区幹事が出席されます。SAA：親睦委員会はお出迎え宜しくお願いします。
9:30～10:20 ガバナーと会長、幹事懇談会
10:30～11:50 クラブ協議会、全員参加でお願いします。
10:20分までには会場の京王プラザホテル多摩ラベンダールームにお集り下さい。
12:30～13:30 クラブ例会です。卓話は丸山ガバナーにお願いしております。
- 多摩RC、稲城RC、多摩グリーンRC、3クラブ合同例会打ち合わせのお知らせが来ています。
日時：11月24日(金)午後6時30分
場所：レストラン神谷
萩生田会長、橋口幹事、佐伯SAA委員長、伊東親睦委員長が出席予定です。
- 静岡県三島の米山梅吉記念館見学会のご案内が来ています。東京三鷹RCが国際奉仕の一環として、米山月間に因んで計画したものです。12月10日(日)米山奨学生の宋珉煥さんが出席する予定です。
- 本日藤田先生の卓話の後、クラブ細則改正案について審議を致しますので、よろしくお願い致します。
- 11月20日のIMの登録は12時、13時開会ですのでご一緒に行かれる方は11時30分までに京王多摩センター駅に集合して下さい。

第246回例会報告 (11/15)

(1995年～1996年度第19回例会)

司会 SAA委員会委員 高村 弘

◎点鐘 会長 萩生田茂夫

◎ロータリーソングソングリーダー 吉沢 洋景
「奉仕の理想」

◎お客様紹介 会長 萩生田茂夫

藤田 良雄様 (日本学士院長)
市川 正男様 (八王子南RC)
松村 聡様 (八王子南RC)
布田 正昭様 (多摩RC)
井上 好弘様 (多摩RC)
メッテ・アルス・オールセン様 (交換留学生)
赤尾ヨシ子様 (赤尾恭雄会員令夫人)

◎10周年記念ご案内 八王子南RC 市川 正男様
松村 聡様

開催日：平成8年2月7日(水)

会場：京王プラザホテル八王子宴会場4F・5F

たくさんの方々の参加を期待しております。よろしくお願い申し上げます。

東京多摩グリーンロータリー・クラブ

会長：萩生田茂夫 副委員長：菅野善太郎 山崎 光一
幹事：橋口 洋三 委員：平野行廣・飯島裕美・根本泰守
会報委員長：小城 章員 関岡俊二・城倉正博・戸田昭寿

事務局：東京都多摩市落合1-9-1
多摩センタービル7階
TEL 0423-72-6463/FAX 0423-72-6491

例会場 多摩そごう7F バンケットルーム

例会日 毎週水曜日12:30 月の最終例会18:30

委員会報告

◎ ニコニコBOX 親睦活動委員会委員長 伊東 巖

八王子南RC様：10周年記念のご案内に来ました。
ご参加お願い申し上げます。

萩生田茂夫：日本学士院長の藤田先生をお迎えて。

橋口 洋三：本日のクラブ細則改正案についての解説。宮本情報委員長又、よろしく願います。

橋口 洋三：先日吉沢先生の診療を受けたので。

伊東 巖：藤田先生の本日の卓話楽しみです。

高野 範城：藤田先生の卓話を楽しみにしています。

宮本 誠：今日はメッテを連れて来ました。11月よりうちにおりますのでよろしく。

遠藤 立一：スイングが良くなって来て希望イッパイなので。

海野 栄一：今日は風が強いですネ。

小林 和夫：前回結婚祝いをいただきましたので。

赤尾 恭雄：家内がお招きいただきありがとうございます。

赤尾ヨシ子：本日はお招きいただきありがとうございます。

本日合計 金25,000円 本年度累計 金409,278円

◎ 出席報告 出席委員会副委員長 小坂 一郎

会員総数	54名
出席者数	45名
本日出席率	83.33%
11/1出席率	62.96%

■ メークアップ 4名

伊神 稔 (11/13武蔵国分寺)

大熊 将夫 (11/9相模原)

関岡 俊二 (11/8八王子)

奥木 博勝 (11/3日本橋東)

■ 欠席届出者 9名

足立潤三郎 伊神 稔 風間 茂穂

北村 幸彦 森田 舞子 奥木 博勝

大熊 将夫 関岡 俊二 田畑 博

◎ 留学生御礼報告 メッテ・アルス・オールセン様

みなさまこんにちは。おこづかいどうもありがとうございました。富士見ヶ丘高校は楽しかった。たくさんのお友達も出来ました。毎日忙しく、先月は風間さ

んの奥様と京都へ行きました。今月は修学旅行で九州へ行きます。色々ありがとうございます。

◎ ローターリー豆知識 ローターリー情報委員会委員 赤尾 恭雄

I.M. (インターシティ・ミーティング) とは?

年1回、地区内の数クラブが一堂に会し、ロータリーの全般的な方針や問題の提起ならびに奉仕活動計画等の共通の議題について討論し、各クラブ間におけるロータリーの情報や意見の交換を行なう都市連合会の事である。I.M.を準備する事は分区代理の一般的任務に含まれるものである。通常は分区単位で開催されるのが効果的とされているが、当地区の場合は東京都区部と多摩地区に分割して開催されている。

従って、当クラブの属する多摩東分区は、多摩南分区と多摩中分区と合同して実施されている。参加クラブは、現在、多摩南分区11クラブ、多摩中分区12クラブ、当クラブ所属の多摩東分区が9クラブ、合計32クラブが一堂に会する研修会である。

I.M.は、ロータリーについて学ぶ有意義な機会であると同時に、近隣クラブとの交流・親睦を深める場でもある。

3分区合同のI.M.は今年が最後になるかもしれませんので、ぜひ出席して下さい。

◎ ボールハリスフェロー表彰式

ロータリー財団委員会委員長 吉沢 洋景

表彰 赤尾ヨシ子様 (赤尾会員令夫人)



◎ 定款細則改定について 幹事 橋口 洋三

解説 ローターリー情報委員会委員長 宮本 誠

ロータリークラブ定款第11条会員選挙の方法、第1節～第7節に関する当クラブ細則改定案について解説及び質疑応答。出席全会員賛成により成立。

— これからの卓話 (予定) と行事 —

11月29日 (卓話) 津守 弘範

「私の地域活動—教師として—」

(今週の担当: 飯島 裕美)

【卓 話】

「ロータリー財団について」

第2750地区ロータリー財団

GSE委員長 森井 紀道様



只今ご紹介頂きました森井と申します。今日はこの多摩グリーンロータリーにお招き頂き、又卓話の機会を頂き誠に光栄でございます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。お手元に資料がございますが、今日の卓話の内容を要約した資料でございますが、先ずロータリー財団の歩みと現況という事で、1917年に国際ロータリー第6代会長アーチ・クランフ氏が提唱しまして、当初スタートは基金としてスタートした訳です。そして1928年に国際大会でロータリー財団というように名称が付けられています。1947年まで（これはポール・ハリス氏が亡くなるまでですが）50万ドルしか基金が集まらなかったのですが、ところがその後ポール・ハリスが亡くなったという事で、ポールハリスフェロー等の方法で1993年6月時点で国際ロータリーで7億6,200万ドル（日本円で約762億）の基金になっております。日本では2,091クラブありますが（会員は125,292名）、日本の今まで拠出した額は168億円でございます。世界の中でも、この金額は大きな金額でございます。ロータリー財団は世界最大の非営利団体でございます。日本では非営利団体は非課税となっておりますが、ロータリー財団は本部がアメリカにありますので、免税の特典はありません。その中で世界各地で人道主義に基づいて恵まれない人々に対しての人道的なプログラム、奨学生、教員、又は専門職の方々に対しての教育的プログラム—これに対する補助金を出しております。この目的としましては、国際レベルでの博愛・教育・文化交流などのプログラムを通じて世界理解と平和を推進する事を目指しております。ロータリー財団は現在までに106ヶ国～127ヶ国に約22,000人の奨学生を出しております。これも世界最大であると言われる所以であります。1991～1992年度

67ヶ国で1,060名の奨学生が世界各地で勉強しております。

ロータリー財団のプログラムはどのようなものがあるかと申しますと、お手元の資料をご覧ください。先ず、国際同額補助金です。3H補助金—保健・飢餓追放・人間尊重の頭文字を取ってこのように言われています。又「ポリオ・プラス」です。これは全世界で達成しておりますが、まだまだ多少ポリオが行き届いていない国もあります。資金的には日本ではすべて完了しておりますが、他の国ではまだ資金の拠出を続けている国がございます。次に「ロータリー・ボランティア補助金」です。それと「カール・ミラー助成金」があります。このプログラムはカール・ミラー会長が亡くなられて奥様が100万ドルを寄付され、その基金で運営されているものでございます。日本ではこの助成金を頂いているプログラムはございません。

それと今日、お話をさせて頂きます研究グループ交換、これは（GSEと呼んでおりますが）私も非常に疑問に思っておりますが、研究ではなく研修と思われた方が良いと思います。地区の中ではGSE委員会と表現しております。それから次に「大学教員の為の補助金」でございます。それと「国際親善奨学金」これは非常に大きな金額を占めておりますが、これには1学年度、マルチ・イヤー、文化研修があります。文化研修は新しく取り入れられまして約3ヶ月又6ヶ月という期間奨学生を受け入れています。その次に「平和プログラム」この9つがプログラムとしてあります。この9つのプログラムをサポートする為にロータリー財団の中にどのような委員会があるかと申しますと地区では5つの委員会があります。1つは「増資委員会」これはお金を集める所です。又「奨学生派遣委員会」「奨学生受入れ委員会」「GSE委員会」「学友委員会」「同額補助金委員会」この委員会は来年度より設けられます。

又ロータリー財団の活動資金—これはシェアシステムと呼んでおりますが、財団の活動資金は1991年～1992年のこの時期に報償料よりシェアシステムに変わりました。そのシェアはロータリー財団に対する地区の一般寄付額の60%、これが地区活動資金として使うことが出来ます。残り40%は国際財団活動資金と呼んでおります。地区の活動資金はDDFと呼んでおります。もう1つはWFと呼んでおります。以上のようにポールハリスフェロー等によりまして一般寄付をしますと、このような形で地区が自由にその基金を使えるようなシステムに変わったという事でございます。

又現在までの一般寄付ですが、ちなみに今年度丸山ガバナー年度は52万ドル、ベネファクターが120名、12万ド

ルこれが、今年度の目標です。

次に「全世界の実業界で一步先に出る為に」です。それではGSEグループがいつ発足したかと言いますと、1965年にGSE研究グループが発足しましたすべてのロータリー財団プログラムの中で最も好評のプログラムの1つとして評価されています。

次に2,750地区のGSE発足の経過を説明させていただきます。

当地区におきましては小倉ガバナー年度（1993年5月）この年が一番費用が拠出出来た訳ですが、日本のロータリー財団に対する貢献、これは寄付でございますが顕彰する表彰式が、品川の高輪プリンスホテルにて、国際ロータリーのダクターマン会長臨席のもとに第一、第三ゾーンのカバナーノミニ、並びに近隣クラブの会長又はロータリー財団委員長等々604名が参加して開催されました。その時にクラブや地区はロータリー財団にいかに取り組みべきかのセミナーが実施されました。このセミナーでGSEを実施している他地区、特に第一ゾーンの方が多いんですが、そちらより実態の報告がなされて翌年度「シェアをよりグローバルに」のテーマを紫野ガバナーが掲げられましたので、その初めにGSE準備委員会が発足しました。結果会長会で賛成が得られましたので、国際ロータリー第7,930地区、マサチューセッツ州のボストンとの交渉もまともな地区として初めて正式にGSEを実施することになった訳であります。そして第1回のGSEの交換が始まった訳ですが、RI第7,930地区よりチームリーダーのジョセフ・ヤンガーさん、チームメンバーはダイアン・リカルトさん、スーザン・ウォーカーさん、ナンシー・ウッズさん、スティープン・ベンチャーさんの5名を1995年3月4日から4月3日までの4週間を受け入れさせて頂いております。そしてRI第2,750地区からチームリーダーの水谷弘さん（柏江RC）チームメンバーの土居弘元さん、小林幹夫さん、川名輝代さん、武田広明さんの5名を1995年3月から4月27日の4週間派遣しました。それで第1回が終わった訳ですが、今度第2回のGSEが今年度始まっている訳ですがRI7,770地区（これは米国のサウスカロライナ州ですが）、受入れは1996年3月2日より4月6日までの5週間、派遣の方は1997年3月29日～5月3日の5週間でございます。すでにやっと向こうよりメンバーが来まして、チームリーダーが、フランク・モーガンさん、チームメンバーはキャロライン・グリフィンさん、アルバート・ブランクモンさん、チャールズ・チャップマンさん、サミエル・ジョーンズさんの5名を受け入れる事になりまして、昨日この会議がございました。第2のGSEチームの受入れについて今日特にこのお願いをしたいのですが、前回は6分区に分けてホストをして頂

いたのですが、今回は支部と区部に大きく分けまして分区代理さん、分区幹事さん、各クラブの会長さんのご協力によって各ロータリークラブにホストをお願いする事になりました。多くのスケジュール、又クラブ昼・夜例会、そしてホームステイ、ホームホスピタリティを通じての多くのロータリアンが参会交流する事によってこのプログラムの意義とロータリー財団の事業を理解頂く事を目標としている訳でございます。そして皆様方のお手元の一番最後のページを見て頂きたいのですが、大方のスケジュールはこのようなになっております。変更等がございましたら、皆様方の各クラブに又配布させていただきます。そしてもう1つは派遣でございますが、今年度のGSEのプログラムは2年間プログラムでございまして、派遣する方は1997年3月後半より参る訳ですが、この派遣するメンバーの応募締切が1995年11月15日までにガバナー事務所あてに送って頂きたい訳ですが、是非このクラブからも素晴らしいメンバーをご推薦願いたいと思っております。そして第1次面接が12月9日、最終面接が1996年1月20日、そして派遣するのが1997年このようなスケジュールになっております。

それで最後に皆様方にロータリー財団月間でございますのでお願い申し上げますが、このような意義あるプログラムが皆様方のポール・ハリス又は無条件寄付によって実施される訳であります。そして更に継続されますので是非今年度の丸山ガバナー年度の先程申しました一般寄付52万ドル、ベネファクター120名、12万ドルが目標に達成が出来ます事が皆様方をお願い申し上げたいと思います。そして今日会長さんと幹事さんがポールハリスフェローのバッチを頂いた訳であります。そして是非もうすでにお入りになって頂いている方をお願い申し上げたいのですが、このポールハリスフェローのバッチは第1回目は何も入りません。第2回目になりますとサファイアが1つ入りませう。第3回目にもう1つ、第4回で3つ、第5回で5つ。そして第6回目ですべて埋まります。今、お入りになっている方も1つだけではなくて、是非10周年までにごちらが皆さん5つ入るようなご協力を賜りたいと思います。私は今4つ入っていますが、来年又入れるとこれが完了すると思います。以上でございますが、是非ともこのロータリー財団月間をご理解頂きまして更なるご支援を賜りたいと思います。宜しくお願い申し上げます。以上非常に簡単でございましたが、これで卓話を終了させていただきますが、ご静聴有難うございました。

第245回（11/8）例会において

（卓話担当：山崎 光一）